

# 1 「理想の未来」の実現イメージ

基本構想で示す「理想の未来」をイメージしやすくするため、めざす「ひとの未来」と「まちの未来」が実現されているときに、市民の暮らしやまちがどのような状態になっているか、具体的に例示します。

## ひとの未来 ①

**自然と共生する落ち着いた暮らしを求める人、特に子育て世帯が暮らしの場として選び、定住している。**

- 新しい住宅地が整備され、名古屋への通勤の便利さと、落ち着いた暮らしができることが魅力となり、定住するまちとして選択されています。
- 空家バンクなどの空家活用の仕組みができたことで、新築住宅や持ち家にこだわらない若い世代の暮らしの場として選ばれています。
- 希望する働き方を可能にする多様な保育や子育て支援が提供されることで、働き盛りの子育て世帯が豊かな自然環境の中での子育てを楽しみ、子どもたちは伸び伸びと育っています。



## ひとの未来 ②

**子どもから高齢者まで幅広い世代の人が、地域の多様な人との関わりの中から学び合い、高め合っている。**

- 子どもたちは好奇心旺盛で、スポーツ、文化芸術、まちづくりなど、それぞれの関心に応じて様々なことにチャレンジしています。
- 学校や地域活動を通じて子どもの健やかな成長に関わりを持つ市民が増え、子どもたちは、自分が暮らすまちを大切に思っています。
- 子どもから高齢者まで幅広い世代が、いつでも学ぶことができる環境があり、学んだことを地域の中で活かす場があることで、学び合い、相互に高め合っています。
- 趣味や特技の活用、学習意欲の高まりから起業をめざすなど、自己実現を求めて、多くの市民が交流しています。
- 朝倉駅周辺整備などにより、にぎわいの拠点が生まれ、市民が交流する場や機会が増え、交流の輪が広がっています。